

授業科目 小児発声発語障害学Ⅰ

【担当教員名】 大湊 麗		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○			
【概要・一般目標：G10】 機能性・器質性構音障害に関する基礎知識を修得する。 口蓋裂に伴う言語障害を中心に、評価、診断、治療について学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 機能性・器質性構音障害の定義を説明できる。 音声を聴取し、構音の誤りを評価できる。 評価、診断、治療の一連の流れを説明できる。 口蓋裂に伴う言語障害のメカニズムを説明できる。 口蓋裂治療における言語聴覚士の役割を考える。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	機能性・器質性構音障害とは、概論			1	講義
2	機能性構音障害の定義、構音発達			1	講義
3	機能性構音障害の評価、構音の誤り			2	講義
4	機能性構音障害の評価、構音検査			2	講義
5	機能性構音障害の診断、症例検討			3	講義
6	機能性構音障害の治療、構音訓練			3	講義
7	器質性構音障害の定義、構音器官			1	講義
8	器質性構音障害の評価、口蓋裂治療			4	講義
9	器質性構音障害の評価、言語管理			4	講義
10	器質性構音障害の評価、鼻咽腔閉鎖機能			4	講義
11	器質性構音障害の評価、構音の誤り			4	講義
12	器質性構音障害の診断、症例検討			3	講義
13	器質性構音障害の治療、構音訓練			3	講義
14	器質性構音障害の治療、家族援助			5	講義
15	器質性構音障害の治療、関連疾患、まとめ			5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂機能性構音障害（言語聴覚療法シリーズ7）	本間慎治	建帛社	2007・2,500円＋税
		器質性構音障害（言語聴覚療法シリーズ8）	斉藤裕恵	建帛社	2002・2,600円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 試験、レポート			【履修上の留意点】		